

「最後まで読まなくてもいいんじゃないじゃあ……」

みなさんが選んでくださった「なん者ひなた丸」シリーズの主人公ひなた丸は修行がすきです。でも、読む側のみなさんは、べつに修行で読書をしているわけではないでしょう？だったら、読んでも本がとちゅうでつまらなくなったら、無理して最後まで読まなくてもいいんじゃないじゃあ……。

つまらなくなってきたら、少しがまんして、何ページかは読み、それでもおもしろくなってこなかったら、その本はやめて、次の本にしましょう。わたしはそういうふうにしています。わたしの場合、がまんは20ページくらいかな。

図書館にいけば、本はただで借りられます！

者々何



斉藤洋 ◎ さいとう ひろし

東京生まれ。代表作『ルドルフとイッパイアッテナ』（講談社）を書き、作家としてデビュー。その後、続編の『ルドルフともだちひとりだち』をはじめ「ペンギン」シリーズ（講談社）、「白狐魔記」シリーズ（偕成社）、「西遊記」シリーズ（理論社）など作品多数。

100冊に選ばれた本

「ナツカのおばけ事件簿」シリーズ（33ページ）／「なん者ひなた丸」シリーズ（33ページ）／「ルドルフとイッパイアッテナ」シリーズ（60ページ）

詩し

ぼくが ここに

まど・みちお

ぼくが ここに いるとき

ほかの どんなものも

ぼくに かさなって

ここに いることは できない

もしも ゾウが ここに いるならば

そのゾウだけ

ママが いるならば

その一つぶの ママだけ

しか ここに いることは できない

ああ このちきゅうの うえでは

こんなに だいじに

まもられているのだ

どんなものが どんなところに

いるときにも

その「いること」こそが

なににも まして

すばらしいこと として

『ぼくが ここに』 童話屋より